

答辞

サクラの花もほころびはじめ、さわやかな春の風が吹く今日のよき日に、私たちは姫路獨協大学を卒業します。本日、ご列席くださいました学長をはじめ、諸先生方並びにご来賓の方々にこのような盛大な卒業式を挙げていただきましたことを心よりお礼申し上げます。

振り返れば6年前、1期生という不安と期待を胸に、この会場で入学式を迎えたことを懐かしく思い出します。当初は、6年間という学生生活は長いと思っていましたが、あっという間の6年間でした。充実した学生生活を送れたからこそだと感じています。また、6年間の学生生活を通して、学部を問わず多くの友人ができました。様々な分野の友人ができたことで良い刺激を受けました。

私たち薬学部は、3年次から、担任の先生の研究室で薬学共用試験に向けた本格的な勉強が始まりました。先生方は忙しい中、一緒に勉強方針を考えてくださり、私たちのために対策プリントまで作ってくださいました。また、友達同士で教え合いながら、知識を深めていくことができました。

そして、5年次での実務実習では、病院と薬局で計5か月間勉強しました。大学で習った知識と臨床とが1つに繋がった瞬間でした。このような貴重な体験ができたことは私たちの財産です。

5年次から配属された研究室での最初の大仕事は、サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト、SPPという高校生を対象に実験を通して科学を身近に感じてもらうというプロジェクトの実験計画を立てることでした。先生から与えられたテーマは、「外見以外からニワトリのオスかメスかを見分ける」でした。今までの勉強の成果を生かし、足りない部分は論文を読んで補い、高校生でも簡単にできる実験計画を練り上げました。完成させるために夜中まで学校に残って何度も何度も実験をしたことはいい思い出です。何でもやってみなければ分からないと思い、上手くいかないんじゃないかと言われたことにもチャレンジしてみました。成功した時の嬉しさは、忘れられません。失敗したことや上手くいかないこともありましたが、先生は、黙って私たちを見守ってくださいました。そして、自分たちで一から考えることの大変さや失敗した時の対処法などこれからの研

究生活で基礎となる多くのことを先生に教えていただきました。様々な研究や学会発表など、言いきれないほどの経験をさせていただきました。これらの経験を糧にこれからも精一杯頑張ります。実は、本当の最初の大仕事は研究室の大掃除でした。

卒業後の進路を決める時には、研究室という枠を超え、いろんな先生方が協力してくださいました。そのおかげで、諦めかけていた夢を叶えることができました。4月からは、大学院に進学し、研究者の卵としての道を歩み始めます。今はまだ、先生方の背中を追いかけることで精一杯ですが、いつの日か先生方と同じ舞台に立ち、第一線で輝けるような研究者になることが次の私の夢です。

これからも切磋琢磨しながら、学生生活での様々な経験を生かして、それぞれの夢へと進んでいきます。卒業後は、なかなか会うことができなくなり、寂しくなりますが、姫路獨協大学での縁を大切に、いつの日か、1期生として同窓会ができれば嬉しいです。

先生方には、感謝してもしきれないぐらいお世話になりました。本当にありがとうございました。これからも人生の先輩として、ご教授のほどよろしくお願いいたします。

最後に卒業生を代表して、今日まで私たちを温かく見守りご指導くださった諸先生方、豊かな学生生活を送れるようにお世話をしてくださった職員の皆様、地域の方々に深くお礼申し上げます。また、楽しい時も辛い時も共に過ごしてくれた学友、経済的にも精神的にも支えてくれ育んでくれた「お父さん、お母さん」そして家族の皆さん、ありがとうございました。

以上、今日から母校となる姫路獨協大学の一層のご発展とご繁栄を願い、私たち卒業生一同の旅立ちとお礼の気持ちを込めて答辞とさせていただきます。

平成 25 年 3 月 26 日

卒業生総代 薬学部医療薬学科 渡邊 愛未